

## 岸田賢次教授のご退職にあたって

商学部長 皆川 芳輝

岸田賢次先生は、2015年3月末日をもって名古屋学院大学を定年退職されました。岸田先生が本学に奉職されたのは、創立から8年後の1972年のことであります。岸田先生は、名古屋学院大学の黎明期から教鞭をとり始められ、実に43年の長い間、本学の発展に寄与されました。ここに、本学と商学部を代表して岸田先生に深甚なる感謝の意を表します。

1967年に慶応義塾大学商学部を卒業された先生は、慶応義塾大学大学院商学研究科に進学され、同科の修士課程と博士課程で学業を終えられた後、本学の経済学部講師に着任されました。その後、経済学部助教授および商学部助教授を経て、1998年に商学部教授に昇任されました。さらに、2001年からは本学大学院（博士前期および博士後期課程）で教鞭をとっておられました。

岸田先生は、教育、研究、校務および地域社会貢献など、あらゆる面で名古屋学院大学の発展に貢献してこられました。岸田先生は、本学において、簿記、財務会計、管理会計、会計情報システムおよびコンピュータ会計に関する講義を担当されました。先生の講義は、学生の間で、わかりやすく、ためになると評判の高いものでした。先生の学術論文に経営工学に関する問題を論考するものがあることからわかるように、ICTを研究領域の一つにされておられます。会計とICTの2つの分野の研究に基づいて、会計を社会における情報処理システムの視点から捉える分析方法が、岸田先生の会計研究の大きな柱になっています。岸田先生が最近において特に力を入れておられる研究テーマは、eラーニングシステムの開発および活用であります。その研究成果は多くの論文を通して公表されています。これらはいずれも、アクティブラーニングの発展に寄与するものであります。校務については、本学の情報倫理教育および名古屋学院大学情報化政策の策定および実施に尽力されました。2012年4月から名古屋学院大学学術情報センター長を務められました。さらに、長きにわたって私立大学情報教育協会会計学教育FD・IT活用研究委員会委員長の役割を果たされました。

岸田先生は、2015年1月に最終講義を為されました。その演題は、『「あるはずの会計」を求めて』でした。これこそが、常に研究に対して謙虚で真摯に向き合う先生の学問に対する態度であります。